

対比を使って、「どちらもすごい！ミニ説明文」を書こう！
「くらしの中の和と洋」

- 1 日時 平成29年11月24日（金）
- 2 学年 第4学年1組 36名 2組 36名
- 3 単元について

【単元観】

本単元は、学習指導要領解説国語編第3学年及び第4学年「C読むこと」の目標（3）「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」を受け、指導事項イ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」を中心に指導していく。対比の構造に着目しながら文章全体の構成を読み取る能力を育むことをねらいとした。

【教材の特性】

本教材で筆者は、暮らしの中の「住」における「和」と「洋」の違いやそれぞれのよさを述べながら、「その両方のよさを取り入れてくらししている」と主張している。

この教材の特性は3点ある。1点目は観点を明確にし、対比構造をもとに説明していること。2点目は、「結論部」でまとめを述べる尾活型の文章構成であること。3点目は、3段落があることで事例を伝えやすくしていること。特に1点目の観点を明確にした、対比構造に気付かせることにより、事例とまとめのつながりを考えられることができ、筆者の述べ方のよさが見えてくると考えられる。

文章構成を押さえたうえで「和」と「洋」の対比構造に気付かせ、それぞれのよさを読み取らせることにより、「どちらもすごい！ミニ説明文」を書くことへつなげることのできる教材である。

【児童観】

観点	内 容	定着率
読む (読書事項)	○文章構成（序論部、本論部、結論部）	約53%
	○重要な語や文を選ぶことができる。	約55%
書く・対話する	○「主張」「根拠」「理由付け」を明確にして、自分の考えをもち、表現することができる。	約68%
	【アンケート】 ○ペアやグループの友達と意見を交流することができる。	約88%
	○クラス全体の中で自分の考えを交流することができる。	約77%
分析	○友達の意見を自分の意見を広げたり、深めたりすることに活かすことができる。	約75%
	序論部、本論部、結論部の文章構成や重要な語や文を選ぶ力は定着していない。特に序論部と本論部の分け方が様々で、三部構成について、その役割を理解していない児童が多い。説明的な文章がどのように構成されているのかとらえさせていく必要がある。 話し合いをすることに関しては、様々な場面で経験しており、意見交流はできているという自己評価は高い。実際には、自分の考えを話すことはできるが、友達の意見をもとに考えたり、相手の意見を尋ねたりする質問力に課題が見られる。	

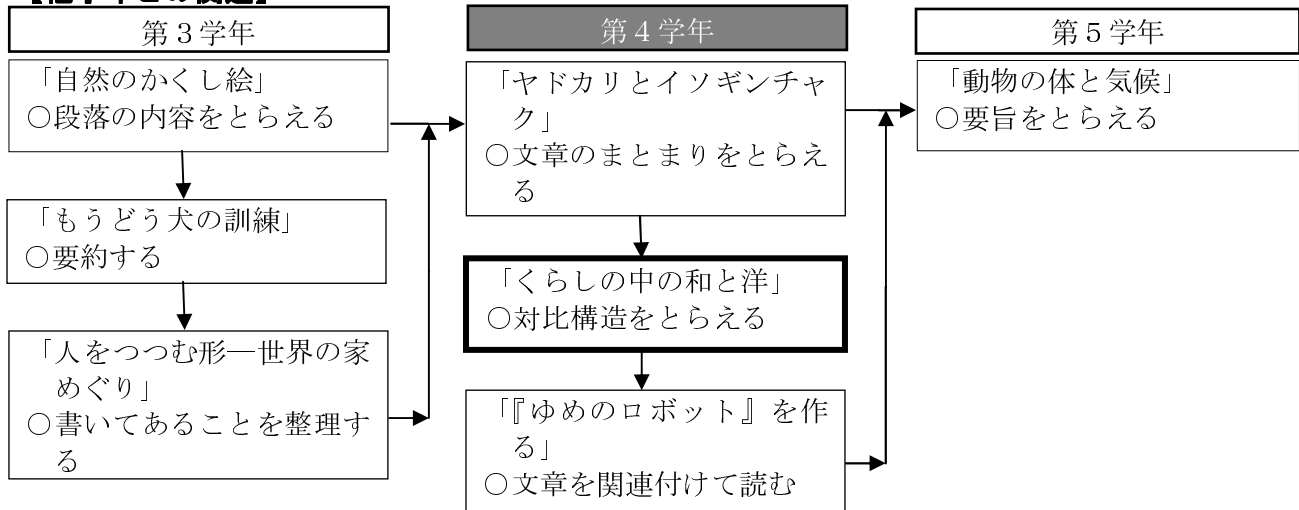
【育てたい資質・能力】

知識・理解	対比構造に着目して、段落相互の関係を捉える読み方の理解
思考・判断・表現	文章構成の工夫やよさを評価する力
主体的に学習に取り組む態度	学習したことや他者と交流して分かったことを、自分の表現に結び付けようとする態度

【指導観】

単元について	一時間ごとの授業について
<p>○単元のゴールとして、「どちらもすごい！ミニ説明文」を書かせる活動を設定する。単元を通して、対比を活かした説明の仕方を視点に文章を読み取り、その力をもとに文章を書くことで、読む力を確かなものにしていく。</p> <p>○三次で自分の説明文を書くときに対比構造を活かせるようにするために、表や文章構成図を書かせていくことで、文章のまとまりやつながりを意識できるようにさせていく。そのために二次で表や文章構成図をまとめながら文章を読み取っていくようにする。</p>	<p>○序論部、本論部、結論部に分けることや対比しているところを見つける活動など、これまでに学んだ読み方を活用させながら学習を進める。</p> <p>○対比を使って説明することのよさをとらえさせるために、同じ観点で見るとそれぞれのよさがはっきりするという述べ方のよさに気付くことができるようにしていく。</p> <p>○あらかじめ書くテーマは絞っておき、選んだテーマごとのグループで協働的に文章の内容や構成を話し合う場を設定する。そして、筆者の述べ方から学んだことを活かして説明文を書けるようにしていく。</p>

【他学年との関連】



4 単元の指導目標

○説明文を書く時に、筆者の述べ方の工夫を活かそうとしている。

(国語への関心・意欲・態度)

◎説明のまとまりを見つけながら、段落相互の関係を読むことができる。

(読むことウ)

○指示語と接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解することができる。

(言葉の特徴やきまりに関する事項イ (ク))

5 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
「どちらもすごい！ミニ説明文」を書くことに意欲をもち、筆者の対比した述べ方の工夫を活かそうとしている。	説明のまとまりを見つけながら、対比構造を読み取ることができる。(ウ)	「まず」「次に」「これに対して」「このように」といった接続語の役割を理解している。 (イ (ク))

6 単元のGOAL

パフォーマンス 課題	対比構造や筆者の述べ方を活かして、「どちらもすごい！ミニ説明文」を書き、友達どうして読み合って、上手に説明できたか確かめよう。		
評価 規 準	A	B	C
	文章を書くときに、対比構造や筆者の述べ方の工夫を活かしたり、 <u>自分の生活場面とつなげるなど結論の述べ方を工夫したりしている。</u>	文章を書くときに、対比構造や筆者の述べ方の工夫を活かしている。	文章を書くときに、対比構造や筆者の述べ方の工夫を意識していない。
[パフォーマンスモデル] (B規準)			
<p>「えんぴつと名前ペン」 私たちは生活の中でえんぴつや名前ペンをたくさん使いますね。 ここでは、そんなえんぴつと名前ペンのそれぞれのよさがどのように生かされているかを考えてみます。</p> <p>えんぴつと名前ペンの最も大きな違いは、消えるかどうかということ、色の濃さだといってよいでしょう。</p> <p>まず、消えるかどうかです。えんぴつは、消すことができるので間ちがえても何度も書き直すことができます。一方、名前ペンは、一度書くと消すことができないので、いつまでも残しておけます。</p> <p>次に、色の濃さです。えんぴつは、使い方によって色の濃さを変えることができます。一方、名前ペンは、色が濃いので遠くからでも見やすいです。</p> <p>このように見てみるとえんぴつと名前ペンでは、それぞれよさがあることが分かります。わたしたちはその両方のよさを活かして使っているのです。</p>			

7 単元の指導計画（全9時間扱い）

次	学習活動（時数）	評 価				
		関	読	言	評価規準	評価方法
一	・比べることでよさが伝わるものを身の回りから見つけ、説明文を書く見通しをもつ。（1）	○			・お互いのよさを紹介したいものを意欲的に考えている。	観察 発言
	・自分の選んだテーマでミニ説明文を試しに書き、困った点を交流する。（1）	○			・ミニ説明文を書くために、筆者の述べ方のよさを進んで取り入れようとしている。	観察 発言 ノート
二	・教材文を読み、筆者の述べ方のよい所を見つける。（1）		◎	○	・文章の内容や筆者の述べ方の工夫を大まかに捉えている。 ・接続語の役割について理解している。	観察 発言 ノート
	・全体を3つに分け、序論部・本論部・結論部の役割を見つける。（1）		○		・全体を序論部・本論部・結論部に分け、文章の構成を読み取り、それぞれの役割に気付いている。	観察 発言 ノート
	・対比構造を見つけて、対比を使って文章を書くことのよさを考える。 【2組本時】（1）		○		・対比を使って文章を書くことで、それぞれのよさがよりよく伝わることをまとめている。	観察 発言 ノート
	・文章構成図をかき、筆者の述べ方の工夫をまとめる。（1）		○		・まとまりごとのつながりに着目して文章の構成を捉えている。	観察 発言 ノート
三	・テーマごとに対比させたい内容と文章構成を考える。 【1組本時】（1）		○		・筆者の本論部の述べ方を活かして対比させたい内容を表に整理し、本論部を文章構成図にして考えている。	観察 発言 ワークシート
	・「どちらもすごい！ミニ説明文」を書く。（1）	○		◎	・「どちらもすごい！ミニ説明文」を意欲的に書いている。 ・筆者の述べ方の工夫を活かして表現している。	観察 発言 作品
	・友達同士で作品を評価し合い、単元で付いた力を振り返る。（1）		○		・対比構造に着目する読み方を活かして、友達の作品を評価している。	観察 作品 発言

【評価問題】（読み・書きの技能）

「アップとルーズで伝える」中谷 日出（光村図書 4年下 平成27年度版）一部抜粋

①序論部，本論部，結論部に分け，段落番号で分けましょう。

②対比して書かれている段落はどこでしょう。また，何が対比されているか書きましょう。

（解答例）①序論部（①～③）

本論部（④～⑤）

結論部（⑥～⑧）

②1段落と2段落，4段落と5段落→アップとルーズで伝わること

8-1 本時の展開（2組）

（1）本時の目標（第4時/全9時）

和室と洋室の対比しているところを見つけて表にまとめる活動を通して、対比を用いた述べ方のよさについて読み取り、まとめることができる。

（2）評価規準

対比を使って文章を書くことで、それぞれのよさがよりよく伝わることをまとめている。

本時で目指す子どもの姿（本時の goal）

筆者は対比を使うことによって、説明したいもののそれぞれのよさがはっきりわかるようにしている。

（3）本時の学習展開

学習活動 ◆指導内容	○主な発問や指示 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ◎評価（評価方法）
1 1回目に書いたときに困ったことからめあてをつくる。	○1回目に説明文を書いて困ったことは何ですか。 ・上手に比べて書けませんでした。 ○みんなが書いた説明文と筆者の書いた説明文ではどちらが上手に比べられていますか。 ・筆者です。 ○どのようにしたら筆者のように上手に対比しながら書くことができるのだろう。	◇説明文を書いて困ったことから、上手に比べて書けなかったことを思い出させる。 ◇筆者の述べ方から学び、説明文に書くときに活かすことを意識させる。
筆者の対比の仕方、上手なところを見つけよう！		
2 筆者の比べ方の上手なところを見つける。	○対比の関係になっているところは、どこですか。 【すわり方】 和室 たたみの上に直接座る。 洋室 いすに腰掛けて座る。 【姿勢の取り方】 和室 いろいろな姿勢をとることができる。 洋室 目的に合わせた姿勢がとれる。 【それぞれのよさ】 和室 人と人との間隔が自由に換えられる。 洋室 次の動作に移ることが簡単。 【使い方】 和室 いろいろな目的で使うことができる。 洋室 置いている家具で使い方が決まる。 （関連づける）	◇対比しているところを見つけたら、プリントの文章に線を引かせる。 ◇児童が見つけた対比を発表し、教師はその対比を短冊に書いて板書する。 ◇短冊を表に整理しながら、できることしか述べていないことに気付かせていき、次の発問へつなげる。

<p>3 できることだけでいいのか話し合う。</p>	<p>○<u>できることがたくさん書いてありますね。できないことも書き加えた方がいいでしょう</u>か。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書いた方がよいと思います。なぜなら、そのほうが和室と洋室についてより詳しく分かるからです。(評価する) 書かなくてよいと思います。なぜなら、書かなくてもお互いのよくないところもわかるからです。(評価する) 書かなくてよいと思います。なぜなら、できることを伝えたほうがいいからです。(評価する) 	<p>◇できないことを加える必要があると述べる児童も認めつつ、できないことは書かなくても和室と洋室の特徴が分かることに気付かせていく。</p> <p>◇できることを対比することで、それぞれのよさが強調されるような述べ方になっていることに気付かせていく。</p>
<p>4 対比のよさについてまとめる。 ◆対比の関係に着目して読む</p>	<p>○筆者の対比を使った述べ方の上手なところをまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれのよさが強調されるように書いています。 	<p>◎対比を使って文章を書くことで、それぞれのよさがよりよく伝わることをまとめている。 (観察、発言、ノート)</p>
<p>5 振り返りを書く。</p>	<p>○「友達から学んだこと」を振り返りましょう。</p>	
<p>6 次時の学習を見通す。</p>	<p>○次は、筆者の文章の構成の上手なところを見つけましょう。</p>	<p>◇次時では、文章の構成について考えることを伝える。</p>

(4) 板書計画

<p>③</p> <p>筆者は、対比を使うことによって、 ()がよく分かるようにしている。</p>	<p>できないことも入れたほうがいい？</p> <p>書いた方がいい</p> <p>ちがうところがよく分かるから。</p> <p>このままでいい</p> <p>書いても意味がないから。</p> <p>できることを伝えるほうがいいから。</p>	<p>使い方</p> <p>いろいろな目的で</p> <hr/> <p>何をするかはっきり</p>	<p>すわり方</p> <p>みんなが座れる 直接すわる いろいろな姿勢</p> <hr/> <p>長時間座れる いすにこしかける 目的に合わせた姿勢</p>	<p>ちがい</p> <p>たたみ 家具をおかない</p> <hr/> <p>板 家具を置く</p>	<p>④</p> <p>和室</p> <hr/> <p>洋室</p> <p>くらしの中の和と洋</p> <p>筆者の対比の仕方、 上手なところを見つけよう！</p>
--	---	---	---	--	--

8-2 本時の展開 (1組)

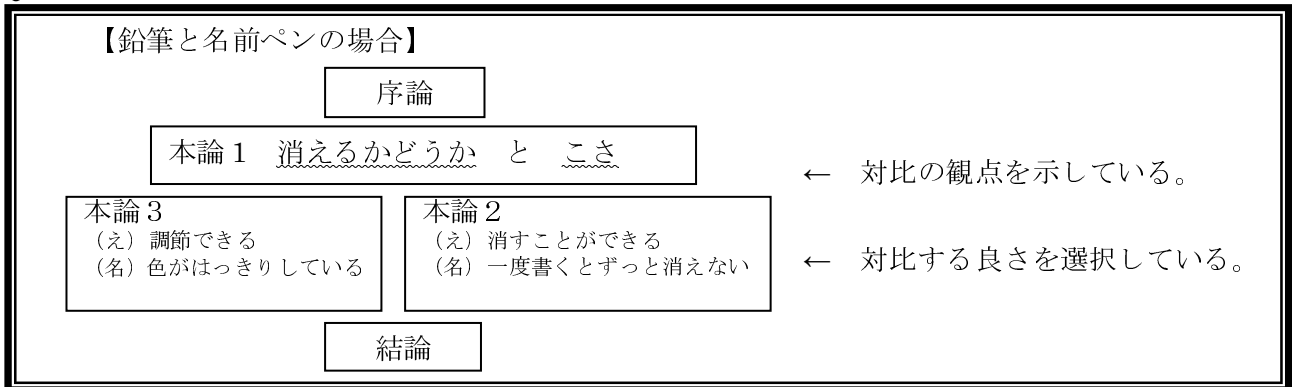
(1) 本時の目標 (第7時/全9時)

読み取った筆者の対比の仕方や文章構成を活かして、文章構成を考えることができる。

(2) 評価規準

筆者の本論部の述べ方を活かして対比させたい内容を表に整理し、本論部を文章構成図にして考えている。

本時で目指す子どもの姿 (本時の goal)



(3) 本時の学習展開

学習活動 ◆指導内容	○主な発問や指示 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ◎評価 (評価方法)
1 「くらしの中の和と洋」の表や文章構成図をふり返る。	○試しにミニ説明文を書いて困ったことは何ですか? ・便利な所を対比して説明することで不便なこともわかることです。 ・「本論1 (3段落)」があることで、何に気をつけて説明したらよいか分かりやすくしてあることです。	◇表や文章構成図から、文章を書くときの工夫を活かせるようにしていく。
筆者の述べ方をまねして、自分の文章構成図をつくろう。		
2 付箋にそれぞれのよさを書く。	○選んだもののよさは何ですか。 【鉛筆と名前ペンの場合】 鉛筆 ・消せる。・濃さを変えられる。 ・長く使える。・削れる。 名前ペン ・色が濃い。・消えない。 ・太い。・はっきり見える。 (関連付ける)	◇2色の付箋を用意し、項目ごとに色を分けて一つずつ書かせる。 ◇視点を明確にし、対比構造になるように書かせる。
3 グループに分かれ対比するように表にまとめる。	○対比するようにグループで付箋を整理し表にしましょう。 【鉛筆と名前ペンの場合】 ・消せる ⇔ 消せない ・濃い ⇔ 薄い 【海とプールの場合】 ・広い ⇔ 浅い ・波がある ⇔ 水がきれい	◇付箋を取捨選択しながら、比べるもののよさが対比するように表に整理させていく。 ◇作った表をもとにして何を比べているのか観点を考えさせていく。

<p>4 自分の文章構成図を考える。 ◆まとまりのつながりに着目して、文章構成を読む</p> <p>5 グループごとの文章構成図を交流し、学習のまとめをする。</p> <p>6 振り返りを書く。</p> <p>7 次時の学習を見通す。</p>	<p>○<u>本論1, 2, 3には何を書きますか。</u> 本論1について 【鉛筆と名前ペンの場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色の濃さ。 ・見え方。 ・消えるかどうか。 <p>【海とプールの場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きさ ・水の違い (関連付ける) <p>○文章構成図について、工夫したことを示しながら紹介しましょう。</p> <p>○友達と学んでよかったことを振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本論に何を書けばよいのか、友達の意見を参考にして考えることができました。 <p>○次の時間は、表や文章構成図を見ながら「どちらもすごい！ミニ説明文」を書いていきましょう。</p>	<p>◇くらしに中の和と洋では「本論1 (3段落)」があることによって観点が明確になっていたことを振り返る。</p> <p>◇まず、本論2, 3に書く内容を決め、それに合わせて本論1に書くことを検討していくよう助言する。</p> <p>◇文章構成図をお互いに見て、確認させていく。</p> <p>◎筆者の本論部の述べ方を活かして対比させたい内容を表に整理し、本論部を文章構成図にして考えている。(観察, 発言, ワークシート)</p> <p>◇協働的に学ぶよさに気付かせる。</p> <p>◇次時では、実際に説明文を書いていくことを伝える。</p>
---	---	--

(4) 板書計画

